



節分会

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

努力どりよくをした人ひと

徳とくを積つんだ人ひとには必かならず

天佑てんゆうしんじょ神助じんすけがあります

天佑神助のこと

日本の繁栄の基

今年の干支は乙未です。干支は六十年で一回りします。それを還暦と言います。また、六十年ごとに歴史は繰り返すとされています。

そこで六十年前を調べてみると、とても景気が良かったようです。昭和三十年、ちょうど自民党と社会党の二大政党ができた年です。

景気が良かった一因に、朝鮮戦争が挙げ

られます。日本が戦争をした訳ではありません。せんが、戦争にはいろいろな物資が必要で、その物資を、アメリカが日本で調達したのです。そのことよって日本の景気が良くなったのです。当時「朝鮮特需」と言われ、別名「神武景気」とも言われました。神武とは神武天皇の神武です。日本最初の天皇です。その神武天皇が建国を宣言されて以来、つまり、日本国始まって以来の最高の景気であるところからそう名付けら

れたのです。経済白書には、もはや戦後ではないと書かれました。

神武景気は数年続きましたが、景気というものは膨らんだりしぼんだりするもので、やがてしぼんでいきました。しかし、次には「岩戸景気」と言われる、神武景気以上の好景気が到来しました。天照大御神が天岩戸にお隠れになって以来の好景気ということですが、その後またしぼんでゆきました。次にはオリンピックピックが東京で開催され、景気がどんどん良くなってゆきました。そして日本は高度経済成長の波に乗り、世界第二位の経済大国になりました。今と少し

似ています。アベノミクスに加え、二〇二〇年には東京オリンピックが開かれます。当時の再現になるといいなと思います。

ただ一つ、大切なことがあります。朝鮮特需という幸運があつたことは間違いないありませんが、同時に、当時の方が勤勉に働かれたことを忘れてはなりません。

働かなければ景気は良くなりません。一生懸命働かれたその結果、景気が良くなつたのです。ですから、その再現を望むのなら現代の私達も一生懸命働いて、一生懸命徳を積みなければいけません。

明治天皇の玄孫の竹田恒泰さんが『日本

人が一生使える勉強法』という本の中で

「日本が経済大国になれたのは、決して頭の良さや手先の器用さなどが理由ではありません。私達が持っている労働に対する価値観こそ、その原動力だったのです。労働そのものに幸せを感じながら、会社のため、組織のために何ができるかを皆で問いつけ、実行してきた協力的体制の結果なのです」と言われています。私もそうだと思います。

日本人は昔から、働くことを美德としました。お金を稼ぐことではなく、働くこと自体を美德としてきたのです。この心が日本の繁栄を根本から支えたのです。

イギリスの繁栄と衰退の因

現在、世界最大の経済大国はアメリカですが、十九世紀から二十世紀初頭にかけてはイギリスが断トツでした。その発展のきっかけになったのが、サミュエル・スマイルズというイギリスのお医者さんが書いた『セルフ・ヘルプ』という本だと言われています。これを翻訳したのが中村敬宇という人で、今でも『自助論』として出ています。明治時代に最初に出されたときには『西国立志編』という名で出版され、非常に売れたということです。

この本が日本で出版された経緯は、幕末

の最後の将軍・徳川慶喜が、イギリスに留
がくせいをおく
学生を送ったことに始まります。

今の世界の基軸通貨はアメリカのドルで
いま せかい きじくつうか
すが、その頃はイギリスのポンドでした。

そのポンドには形容詞がついていて「スタ
けいようし
ーリング・ポンド」と言われています。

スターリングとは「鋼鉄」という意味です。
こうてつ
揺るぎのない世界最高の貨幣という意味で
せかいさいこう かね
す。イギリスはそういう強い国でした。そ
つよ くに

の国に慶喜公は、非常に優秀な若者十二人
くに よしのぶこう ひじょう ゆうしゅう わかもの
を留学生として送ったのです。そのお目付
りゅうがくせい おく
け役として、中村敬宇をつけました。敬宇
やく なかむらけい
は幕府の学校「昌平黌」創立以来の秀才と
ばくふ がっこう「しょうへいこう」そうりつ いらい しゅうざい

言われた人でした。

出発に先立って一行は慶喜公に「五年く
しゅつぱつ さきだ ことう よしのぶこう ねん

らしいは好きにやってこい。とにかくイギリ
すのすべてを吸収して、イギリスの繁栄の
ひみつを突き止めよ。イギリスという国は小
さい国である。日本と変わらない。気候も
似ている。それなのに、この国力の差はど
こから来るのか、それを突き止めよ」と言
われて行きました。ところが留学して一年
くらいで幕府が潰れて明治になり、急遽帰
らなければいけなくなりました。敬宇はと
ても真面目な人で、一生懸命いろいろな人
に話を聞き、勉強して、せつかく將軍様に

イギリスまで送^{おく}つて頂^{いた}いたのに申^{もう}し訳^{わけ}ない
と思^{おも}いながら、泣^なく泣^なく帰^{かえ}ることになりま
した。そこに、イギリスで知^しり合^あったフリ
ーランドという人^{ひと}がや^きつて来て「今^{いま}、イギ
リスで一番^{ばん}人^{にん}気^きがある本^{ほん}なんだ」と『セル
フ・ヘルプ』をく^よくれたのです。その本^{ほん}を帰^{かえ}
りの船^{ふね}の中^{なか}で読^よんで、イギリスの繁^{はん}栄^{えい}の秘^ひ
密^{みつ}を知^しったのです。

当^{とう}時^じイギリスは、世^せ界^{かい}の工^{こう}業^{ぎやう}生^{せい}産^{さん}の六^む割^{わり}
を占^しめていたとい^いうくら^いい繁^{はん}栄^{えい}していまし
た。七^{しち}つの海^{うみ}を征^{せい}服^{ふく}して世^せ界^{かい}中^{ちゆう}に植^{しょく}民^{みん}地^ちが
ありましたから、「日^ひの沈^{しず}まない国^{くに}」とも
言^いわれていました。その秘^ひ密^{みつ}がわ^わかつたの

です。

その秘^ひ密^{みつ}を一^{いち}口^{くち}に言^いうと、イギリス人^{じん}の
努^{どり}力^{りき}です。要^{よう}するにその本^{ほん}には「こうい
う人^{ひと}がこうい^いう努^{どり}力^{りき}をし^したから、天^{てん}の助^{たす}けが
あり、こうい^いう良^よい結^{けつ}果^かを得^えた」とい^いう、
因^{いん}果^が応^{おう}報^{ほう}・善^{ぜん}因^{いん}善^{ぜん}果^がの話^{はな}がた^たくさん書^かいて
あ^あつたのです。

「イギリス人^{じん}は個^こ人^{じん}個^こ人^{じん}がと^とても頑^{がん}張^ばるん
だな。頑^{がん}張^ばるからそ^そこに天^{てん}が力^{ちから}を与^{あた}えるの
だ」と敬^{けい}宇^うは理^り解^{かい}をして、船^{ふね}で日^に本^{ほん}に帰^{かえ}
る何^{なん}か月^{げつ}もの間^{あいだ}、何^{なん}度^ども何^{なん}度^ども読^よんでほとん
ど暗^{あん}記^きしてしま^いったとい^いいます。

義^ぎ理^り堅^{がた}い敬^{けい}宇^うは帰^{かえ}つてすぐ、静^{しず}岡^{おか}に蟄^{ちつきよ}居^い

している慶喜公のところに行きました。そして「イギリスの繁栄の秘密がわかりました。これです」とその本を翻訳して『西国立志編』と名付け、慶喜公に捧げました。それが静岡で出版されたのが明治四年です。その本が、福沢諭吉の書いた『西洋事情』と並んで、売れに売れました。本国イギリスでは、「聖書に次いで売れた本」と言われています。

当時イギリスは、医者が多くて、スマイルズも医者としてはうまくいかなかったようです。そこで、もともと文章を書くのが好きだったスマイルズは、文章を書いて生

計を立てようと思いつき、人々の「伝記」を書き始めたのです。

まず蒸気機関車を発明したステイブソン のことを書きました。それが評判を呼び、出版社から新たな依頼が来ました。氣を良くしたスマイルズはその後もいろいろな人を取り上げ、その人達の成功談を書いていきました。それが次々に人々に喜ばれ、講演も頼まれるようになりました。

その頃のイギリスも実は日本の江戸時代と同じように階級社会でした。最上位が貴族、その次がアッパーミドルという大地主や高位聖職者、次がローアマドルという大

商人、ここまでがジェントルマンと言われ
ていました。その下がワーキングクラスと
いう労働者階級でした。日本の「士・農・
工・商」のように先祖代々決まっていたの
ですが、スマイルズの本を読み、話を聞く
うちにみんなが「努力したらどうにかなる
かもしれない。天の助けがあるかもしれな
い」と思い、「頑張るようになりました。そ
うすると、やがてワーキングクラスの人が
上に行けるようになったのです。そして、
イギリス社会全体が、どんどん変わって
きました。

ただ、スマイルズの時代からだいたいぶ経っ

てからのことですが、イギリスはどんどん
悪くなっていきました。「英国病」と言われ
た時代です。

杉山先生がご法話の中で「時代が下って
便利になると人間が怠け者になる。働かず
に収入を得よう。楽をしようとなってくる。
そうなってはいけない。私達法華経信徒は
そのようなことがないように、勉強・努力
をしなければいけない」と言われています
が、イギリスがそうなってしまったのです。
権利ばかりを主張するようになり、労働組
合があちこちにでき、ストライキばかり起
こるようになりました。お医者さんや看護

婦さんがストライキをして病院が機能しなくなり、給食のおばさんがストライキをして学校が休校になり、ゴミを収集する人がストライキを起こしてゴミが回収されず、街にゴミが溢れ返つてしまいました。また、墓を掘る人がストライキを起こして死者が埋葬されなくなり、トラックの運転手がストライキを起こして暖房用の灯油が配達されず、凍え死ぬ人がたくさん出るといふ、そんな時代になつていきました。

これが解消され始めたのは、サッチャーさんが登場した頃からです。現在は「英国病」は克服されたと言われています。

人間は便利になるとだんだん怠け心が芽生えてきますが、そこを律していかなければいけません。天の助けというものは、努力をした人、徳を積んだ人にしかきません。是非、徳を重ねて天佑神助がありますよう、頑張つて頂きたいと思ひます。